

講義科目	: 地方政治論 (70期生)	単位数	: 2
担当	: 岡田 一郎	学習形態	: 選択科目

講義の内容・方法および到達目標

地方自治法で規定された自治体の制度枠組みを踏まえ、そこでどのような政治が展開するかを講義します。到達目標は次の通りです。

- ・ 首長と議会との関係を理解し、説明できるようになる。
- ・ 団体自治と住民自治について理解し、説明できるようになる。
- ・ 地域における様々な団体、運動を調査する方法を理解できる。
- ・ 「ローカル・ガバナンス」とは何か、理解し説明することができる。

授業計画

- 第1回 地方政治論の対象と方法
- 第2回 学習のガイダンス：ノートの取り方、資料の探し方等
- 第3回 二元代表制：首長と議会
- 第4回 第二次大戦後の経済と国家：福祉国家、新自由主義
- 第5回 労働、社会保障における地方自治体の役割
- 第6回 地方分権改革の経過
- 第7回 大都市圏におけるガバナンスの難しさ
- 第8回 産業振興における民主主義
- 第9回 広域行政：いっそうの合併か合併なしの連携か
- 第10回 コミュニティ活動：過疎地域の地域振興の困難さ
- 第11回 住民投票：行政提案への賛否から対案の提示に向かえるか
- 第12回 中央地方関係の変化：分権と住民参加の現状と課題
- 第13回 ローカル・ガバナンス
- 第14回 資本蓄積と地方政治
- 第15回 まとめ：基本用語の再確認、および今後の学習の手引き

教材・テキスト・参考文献等

- ・ テキスト：『ローカル・ガバナンスとデモクラシー』（法律文化社、2016年）
- ・ 参考文献については講義中に適宜紹介していく、

成績評価方法

- ・ 毎週、講義内容にもとづき課題（小テストまたはレポート）を課す。
- ・ 期末にレポートの提出を課す。
- ・ 評価は小テストを40%、期末レポートを60%の割合で判定する。

その他

行政学、政治学、財政学など関連分野を併せて受講することを推奨します。グループで討論し、結果を報告する機会を作る予定です。能動的な姿勢で参加されることを期待しています。